

第24回SEA教育ワークショップ2010  
テーマ: 確実な成果が求められる教育の実現を目指して  
方法論と事例による研究

2010年10月28日(木)～10月30日(土)

主催: ソフトウェア技術者協会(SEA) 運営: 教育分科会(SIGEDU)  
実施報告書

### 1. 開催概要

私たちソフトウェア技術者協会－教育分科会－は、わが国をはじめ、グローバルな情報通信社会におけるソフトウェア技術者、情報処理技術者の育成、教育について、官民、産学を問わず、広く各方面の方々と共に考察、検討を重ねてきております。

今年で24回目を迎える恒例の教育ワークショップでは、昨今の厳しい経済状況を背景に、教育に対する実質的な成果がより厳しく求められており、こうした時代の要請に応えるにはどうしたら良いかを参加者の教育改善事例を通して議論してきました。

年間計画では篠崎さん(NECソフトウェア)が実行委員長の前定でしたが、バルトソフトウェア(株)からの和歌山誘致もあり、急遽牧野(バルトソフトウェア)が担当することになりました。プログラム委員長



をお願いした米島さん(NECネットエスアイ)の人脈もあって、のべ15名の方に参加していただき、深夜まで激論が続きました。また、台風接近で交通機関への影響が心配でしたが、ワークショップ開催中に紀伊半島付近に最接近したにも関わらず、全く雨にもあわないという強運さでした。きっと参加者の日頃のおこないの良さと、熱い議論で逃げていったのでしょう。

(まきの)

### 2. 日程

2010年10月28日(木)～10月30日(土)

### 3. 会場

紀州和歌の浦温泉「萬葉の湯」

政府登録国際観光旅館 萬波 MANPA RESORT

〒641-0023 和歌山県和歌山市新和歌浦2番10号

<http://www.manpa.co.jp/>



#### 4. 参加者一覧

氏名	会社	所属
鯨坂 恒夫	和歌山大学	システム工学部
鈴木 克明	熊本大学	大学院教授システム学専攻
米島 博司	NECネットエスアイ(株)	ネットワークサービス事業本部事業企画室人材開発部
君島 浩	筑波大学付属病院	ISO・医療業務支援部
奈良 隆正	NARA コンサルティング	
山越 正俊	バルトソフトウェア(株)	
牧野 憲一	バルトソフトウェア(株)	
阪本 浩之	和歌山県庁	商工観光労働部企業政策局企業立地課
豊永 正人	(株)日立ソリューションズ	教育センタ
内田 実	LBS研究スタジオ	
兼武 充	バルトソフトウェア(株)	和歌山開発室
玉置 洋一郎	バルトソフトウェア(株)	大阪開発室
森泉 清	リコーテクノシステムズ(株)	経営統括本部経営革新室
辻 達諭	ソニーセミコンダクタ九州(株)	人事部人事3課
並河 英昭	ソニーセミコンダクタ九州(株)	人事部人事3課

実行委員長 : 牧野 憲一 バルトソフトウェア(株)

プログラム委員長: 米島 博司 NECネットエスアイ(株)

## 5. プログラム

月日	日時	時間	セッション内容	発表者(担当者)	司会進行役
10月28日	13:00	—	現地集合(集合場所)ホテル萬波にて	牧野 憲一	
	13:30	30	オリエンテーション、自己紹介、Session調整	米島 博司	
			第1部		
	14:00	60	セッションカテゴリ<大学・大学院の教育革新事例> テーマ「「エクスぺリエンス工学とその教育実践への適用」	鯨坂 恒夫(和歌山大学)	奈良 隆正(NARA コンサルティング)
	15:00	60	セッションカテゴリ<未定 > テーマ「和歌山県の情報通信系企業の誘致について」	阪本 浩之(和歌山県)	鯨坂 恒夫(和歌山大学)
	16:00	10	休憩	—	—
	16:10	60	セッションカテゴリ<ソフトウェア技術者育成の実践事例> テーマ「ソフトウェア技術者への品質(保証)教育について」	奈良 隆正(NARA コンサルティング)	阪本 浩之(和歌山県)
	17:10	50	休憩(部屋に移動、入浴可)		
	18:00	120	夕食(懇親会)	—	—
	20:00	30	休憩(入浴可)	—	—
	20:30			オフレコセッション(1)	

月日	日時	時間	セッション内容	発表者(担当者)	司会進行役
10月29日	8:00	—	朝食	—	—
			第2部		
	9:00	50	セッションカテゴリ<企業内教育の実践・改善事例> テーマ「ES&CS向上を実現するマネージャー育成」	森泉 清(リコー・テクノシステムズ)	辻 達諭(ソニーセミコンダクタ九州(株))
	9:50	50	セッションカテゴリ<企業内教育の実践・改善事例> テーマ「ネットワーク技術者育成の課題と技術認定制度の活用」	米島 博司(NECネットエスアイ(株))	並河 英昭(ソニーセミコンダクタ九州(株))
	10:40	10	休憩	—	—
	10:50	50	セッションカテゴリ<企業内教育の実践・改善事例> テーマ「チーム作業技法TeamSTEPSの導入・八甲田山雪中行軍は正しかった」	君島 浩(筑波大学付属病院)	森泉 清(リコー・テクノシステムズ)
	11:40	50	セッションカテゴリ<企業内教育の実践・改善事例> テーマ「基幹人材育成カリキュラムの実施について」	並河 英昭(ソニーセミコンダクタ九州(株))	米島 博司(NECネットエスアイ(株))
	12:30	60	昼食		
	13:30	50	セッションカテゴリ<企業内教育の実践・改善事例> テーマ「各種リーダーシップ教育導入のその後…(＋農業技術者の人材育成課題(個人テーマ))」	辻 達諭(ソニーセミコンダクタ九州(株))	君島 浩(筑波大学付属病院)
	14:20	10	休憩		
				第3部	
	14:30	40	セッションカテゴリ<ソフトウェア技術者育成の実践事例> テーマ「目指せCMMI認証」	山越 正俊(バルトソフトウェア(株))	米島 博司(NECネットエスアイ(株))
	15:10	30	セッションカテゴリ<ソフトウェア技術者育成の実践事例> テーマ「ある中堅社員の悩みー私のあるべき姿とはー」	兼武 亮(バルトソフトウェア(株))	米島 博司(NECネットエスアイ(株))
	15:40	10	休憩		
	15:50	30	セッションカテゴリ<ソフトウェア技術者育成の実践事例> テーマ「研修を終えて～社内外の違いと今後への展望」	玉置 洋一郎(バルトソフトウェア(株))	米島 博司(NECネットエスアイ(株))
	16:20	50	セッションカテゴリ<ソフトウェア技術者育成の実践事例> テーマ「組織力向上に向けて」	牧野 憲一(バルトソフトウェア(株))	米島 博司(NECネットエスアイ(株))
	17:10	50	休憩(入浴可)	—	—
	18:00	120	夕食(懇親会)	—	—
	20:00	30	休憩(入浴可)	—	—
	20:30			オフレコセッション(2)	

月日	日時	時間	セッション内容	発表者(担当者)	司会進行役
10月30日	8:00	—	朝食	—	—
			第4部		
	9:00	50	セッションカテゴリ<教育設計方法論の最新動向> テーマ「准定期運送用操縦士訓練準備状況」	内田 実(LBS研究スタジオ)	鈴木 克明(熊本大学大学院)
	9:50	10	休憩	—	—
	10:00	50	セッションカテゴリ<教育設計方法論の最新動向> テーマ「要件定義演習科目の方略変更による学習改善」	豊永 正人(日立ソリューションズ(株))	内田 実(LBS研究スタジオ)
	10:50	10	休憩	—	—
	11:00	50	セッションカテゴリ<教育設計方法論の最新動向> テーマ「ARCS-Vモデルを支えるMVPマクロモデルは妥当か」	鈴木 克明(熊本大学大学院)	豊永 正人(日立ソリューションズ(株))
	11:50	10	総括、SIGEDU活動紹介、解散	—	米島 博司

## 6. 参加者感想(敬称省略)

### ■ 鯨坂 恒夫先生(和歌山大学)

伝統ある SIGEDU ワークショップ, このたびは遠路和歌浦へお越しいただきありがとうございました。和歌山の微妙な感じを体感していただけたかと思います。

技術者集団が教育の議論をするというのなかなか微妙なものです。学術の体系でいいますと教育学というのは社会科学に属します。社会学をはじめとする社会科学は、現象の分析を旨とし、合成局面は持ち合わせないのが仁義であります。一方、技術や工学の分野は合成が目的ですから、効果と効率(品質と生産性)の議論が中心となります。ソフトウェアを対象とするわれわれはままだし定量評価の難しさを知っていますが、フィジカルな技術の感覚で教育をとらえると、きっとおかしいことになります。人間のモノ化(objectification)は教育以外の社会現象でも議論されることですが、だいたいネガティブなトーンです。

しかし、何によらず何か変化を観測することはしたいわけで、単に言葉づかいの問題かもしれませんが、義務としての効果・効率の追求からはわれわれ自身を解放し、有意な変化を明らかにするという姿勢で、今後も教育の議論を続けたいと思いました。



### ■ 鈴木 克明先生(熊本大学)

ワークショップではお世話になりました。鈴木@熊本大学です。

小生の出番は「とり」ということで、最後の最後でした。お題は、「ARCS-V モデルを支える MVP マクロモデルは妥当か」ということで、25 年前に提唱されて教育設計モデルで学習意欲を直接扱うモデルとして一番有名な ARCS モデルが ARCS-V モデルに進化を遂げている様子をご報告しました。その真のねらいは、提唱者ケラー教授の近著「学習意欲をデザインする」の日本語訳を北大路書房から出版した(鈴木が監訳)のでその宣伝でした。配布資料は、今年の7月に熊本で開催された第17回日本教育メディア学会年次大会でつけた発表論文の写し(※1)と ARCS モデルをあまり知らない人のために用意した「学習意欲を高める作戦集(教材作り編+学習者編)」をつかい(回し)ました。



(※1) 鈴木克明(2010.7)「ARCS モデルから ARCS-V モデルへ」第17回日本教育メディア学会年次大会(熊本市国際交流会館)発表論文集 115-116

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/?p=2156>

そういえば、導入部でチラッと、熊本大学 e ラーニング推進機構が毎週行っているランチョンセミナーでお話したときのプレゼン資料(※2)も使って、短時間で参加者のニーズに応じて(レベルに合わせて)基礎知識の確認(復習)をするフォーマットも示しました。ちなみに、また宣伝ですが、このランチョンセミナーは毎週水曜日ごろのお昼休みにやってみて、インターネット経由での同時中継聴講とチャットへの書き込みによる質問が可能。アーカイブにも提示資料(TEXT)とやり取りの音声記録(VIDEO)も毎週分アップしてます。



(※2) 鈴木克明(2009.2)「ARCS モデルとブレンド型 e ラーニング: 動機づけ設計モデルの応用」本大学 e ラーニング推進機構第 5 回ランチョンセミナー(2009/2/18)

<http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/?p=41>

<http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/> (ランチョンセミナートップページ)

それで、肝心の「MVP マクロモデルは妥当か」という議論ですが、盛り上がりました。「分かるようで分からないねえ」、「せっかく本人が来年も来日するならば直接聞いてみたほうがいいんじゃない?」と、まあ、ワークショップも終わりが近づいていましたし、和歌山ラーメンに「注意」が向いていたこともあり、自由闊達な意見のやり取りがありました。かなり「なるほど」と思える意見も交換することができたという印象がありますが、詳細はここでは割愛します(どこへいったか、あの日のメモは! )。

最後の最後まで待たされた間には、いろいろと苦言を呈し、アイデアを開陳し、積極的に発言していたなあ、と今、振り返っています。小生としては励ましたつもりの各位がバージョンアップした発表をまたの機会にしてくださることを楽しみにしております。今回は理論的なお話でしたが、事例研究発表会には自分の事例を持参して参加して、皆様に叩かれてたく存じます。

いろいろとお世話になりました(とくに、牧野実行委員長! )。多謝。

#### ■米島 博司(NECネットエスアイ株式会社) プログラム委員長

SEA 教育ワークショップも24回を重ねてきました。私が初めて SEA に入会してすぐに、篠崎氏の代理で急遽実行委員長 を担当したのはちょうど12年前、和歌山の南紀白浜でした。今回は和歌山市内の和歌の浦ということで、久しぶりの紀伊水道の青い海と空を楽しみにしていました。



プログラム委員長を仰せつかっていたにも関わらず、初日の22時過ぎに遅れての合流で颯爽を買っていた上に、羽田で整備不具合が見つかり機材変更で40分も遅れるというトラブルに巻き込まれ、結局宿にたどり着いたのは23時過ぎになってしまいました。やれやれ。

昨今の経済状況から、当初から参加者数が心配されましたが、最終的に15名の参加を見ることができ、盛会のうちに 終える事ができました。自費参加で駆けつけてくださった方、また今回特別にご自身も含め社員を4名も引き連れて参加いただいたバルトソフトウェア社の山越社長には心より御礼を申し上げます。

#### ●初日の午後

鱒坂先生、阪本さん、奈良さんの発表を聞くことができず残念でした。後から資料を拝見して勉強します。

#### ●2日目の午前から午後

森泉さん、米島、君島さん、並河さん、辻さんと、企業や病院における教育、人材育成の実践事例や改善事例の発表 が続きましたが、いずれも企業・組織における人材育成や組織人のパフォーマンスを如何にして向上させるかの試みの 事例で、皆さんの苦労を垣間見ることができました。

#### ●2日目午後 バルトソフトウェア社(4名)のセッション

社員30数名規模の組み込み系を得意とするソフトウェア開発会社の教育事例と改革の試みの紹介

でした。CMMI 認証を取得しようとの意気込みの元、大規模会社になつてはできないと思われる革新的な挑戦に対し、教育の改善についても参加者から熱のこもったアドバイスが数多く飛び交い、整理するのが大変かなと思うくらいのお土産を持ち帰られたのではないかと思います。山越社長、兼武さん、玉置さん、そして牧野さんの今後の改革推進を楽しみにしつつ、機会があればその後の経過も別の場所で聞きたいと思ひます。

こうした、特定の一社の事例を集中的に取り上げるという試みは教育ワークショップでは初めてでしたが、発表する側も アドバイスする側も、非常に参考になり、今後のワークショップのプログラムの一つのあり方としても大変意味のある経験となりました。

### ●3日目の午前

台風が近づき、帰路を気にしつつも、内田さん、豊永さん、鈴木先生の発表を予定通り進めることができました。内田さんの受注継続、豊永さんの教育改善の成果を祈ります。

鈴木先生からの ARCS モデルへの「意志」と追加については、皆さんからも様々な質問、意見が出て、ケラー教授ご本人の意図をいつか直接聞きたいと思ひました。

来年は、25回を迎える教育ワークショップをどこで開催しようかと、早や、心待ちに想像しながら帰路につきました。私は、台風を追いつかないよう、なんばから近鉄で名古屋へ、名古屋で時間をつぶして新幹線ホームのきしめんの味を確認して、ゆっくりと東京に戻りました。また、来年お会いしましょう。

### ■君島 浩(筑波大学附属病院)

1日目はトップバッターの鱒坂先生のエクスペリエンス工学の発表に、自分のやっている仕事に相通じるところがあり、合の手を入れやすかったです。SIGEDU 恒例の対話型発表が順調にスタートしました。出張予算の厳しい折から、某大学のプロジェクト予算にすがつて参加できたことを感謝します。

私は2日目の3番目という二日酔いが覚めたちょうどよい時間に出番になりました。11月に次世代大学



教育研究会(於長崎大学)で発表予定の「病院の戦略・戦術概論」という発表の試作版です。名前は和歌山ワークショップの人集めのために「チーム作業技法 TeamSTEPS: 八甲田山雪中行軍は正しかった」にしました。私の発表はいつもながら質問や意見があまり出ない代物です。物理学概論のような内容本位で能書きなしの授業をするクセがあり、おまけに今回は更にその授業の圧縮版でしたから、きつかったようです。

前半の戦略立案の部分は、病院内でまだ授業していない初公開のものでよたよたしました。戦略立案は能書きではなくて、自衛隊や役所はこうやって戦略立案をしている、という実践論です。後半の TeamSTEPS の紹介は、筑波大学附属病院の看護師長級に授業して2回目なので少しこなれていました。批評をちょうだいしたので、この次はうまくいきそうです。八甲田山雪中行軍の教材は、鱒坂先生がエクスペリエンス工学みたいだ、と意義を理解してくださいました。八甲田山雪中行軍の教材と言っても、経営講師がやっている軍隊を批判する内容ではなくて、軍隊の行動には TeamSTEPS につながる合理性があったという内容です。

私たちのワークショップは、途中質問という特徴以外にも世間のワークショップとは違う点があります。私たちのワークショップは作業集会で、世間のは気付き模擬演習と言えるのではないのでしょうか。

私たちのワークショップは、一人前の勤め人が本物の実務を持ち寄って批評を受けるのが普通です。初心者の方もいますが一人前の実務の批評とはどんなものかを知ることができます。これは画家のアトリエや舞踏家の批評会と似ています。集合はしていますが、作品は個人のもので、どんなに批判されようと実務は自分個人の責任で進めることなので、他人にどんなに批判されようが採用する義務はありません。そういう態度だからこそ、批判をいくらでも歓迎できます。批判する方も自分の責任ではなくて、相手の責任なのだからと、相手を尊敬して遠慮なく批判をします。

一方、世間でワークショップと言えば、気付き模擬演習のようなものがほとんどです。初心者を集めて模擬演習をさせます。グループ作業を入れるのも定番です。初心者の模擬演習ですから水準の低い状態で終わります。グループ作業ですから、自分個人の実務から遊離したもので終わります。だれの責任でもないので、どう議論してよいか迷います。批判されると萎縮しますし、批判する方も遠慮します。こういう方法が悪いわけではないのですが、それならそうと単にグループ模擬演習とかブレインストーミングと称してくればよさそうなものです。徹底的なワークショップに参加して、思う存分意見をいって堪能しました。

#### ■ 阪本 浩之(和歌山県庁)

この度は、第24回SEA教育ワークショップを和歌山県で開催いただきまして誠にありがとうございました。さて、私は、和歌山県において企業誘致をすすめるうえで、必要とされるICT人材とはどういうものか、という視点からこのワークショップに参加させていただきました。

反面、和歌山大学の鱒坂先生をはじめ、アカデミックな方々のお集まりの中で、私のような全くの素人が議論に参加できるのかな、と少々心配しておりました。

他の用務の都合上、初日の半日だけの参加ではありましたが、お陰様を持ちまして、無事、乗り切ることができました。大変ありがとうございました。

SEA教育ワークショップに参加されました皆様方には、今後とも、和歌山県に対しまして、格別のご指導とご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。



#### ■ 豊永 正人(株式会社日立ソリューションズ)



静かな海に遠く眼を凝らす休み時間、時の流れを忘れ、素晴らしい景色です。隅々までゆきとどいた快適な運営のもと興味深い話題の連続で、楽しい3日間でした。

皆さんの関心事項を直に聞かせていただき大いに刺激を受けました。そして、自身の課題が何であるかを確認することができて、来年このつどいへ再びという思いがつのります。貴重な機会を提供くださりましてありがとうございました。

#### ■ 森泉 清(リコーテクノシステムズ株式会社)

「社員満足度向上と顧客満足度向上の両立ができるリーダーの育成」をテーマに参加させて頂きました。



2日目のセッションは参加した目的を充分満足できる内容でした。社員を満足させるマネジャー、お客様を満足させる現場接点社員の育成は簡単ではないが育成が可能であることを確信させて頂きました。

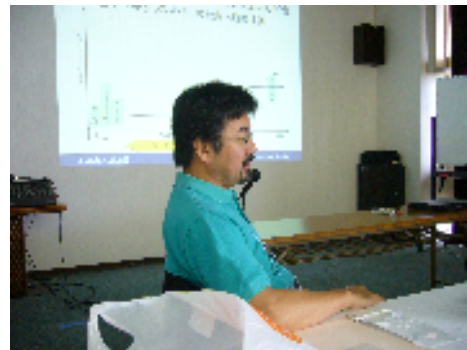


私は何時も、参加者の皆さんから得た知識はやヒントを元に職場で応用した成果を報告して意見を頂く事を狙いに参加しておりますが今回の暖かく・厳しい意見を沢山頂きましたので現在の仕事に活用し、その成果を次回WSにて発表させていただきます。いろいろご指導頂きありがとうございました。

#### ■辻 達論(ソニーセミコンダクタ九州株式会社)

今回は、久しぶりの参加で、いつもの顔に、新しい顔の参加者も加わり、新鮮な気持ちで臨めたように感じています。ただ、自身の発表は、十分な準備ができずプレゼントはいまいちだったと思うが、貴重な指摘をいただき、今後役に立つ情報が十分に得られたと思います。皆さん、ありがとうございます。

森泉さんの発表で、「人間に関する関心」軸の低い人材の是々非々の話(と私は認知)は、これまでの自分たちの取り組みを異なる視点で見直す良い機会でした。「人」に関する要素の仕事の成果への影響が大きいことを普通の感覚として多くの人は直感的に捕らえているものの、明確でコンセンサスが得られる指標がなく、定量化がないことから企業内の取り組みが本格されない企業が多くあるまま、数十年たっているように感じています。それを、定量化する方法での取り組みは、大いに参考になりました。



弊社は、組織実態を定性的に捉えた直感を頼りに、経験による方法論で「人間に関する関心」を高めるための教育体系を導入していますが、森泉さんの発表で、ソフトエンジニアに限らず、技術者育成に等しく必要になる観点との思いを強くしました(自画自賛)。

久しぶりに参加して、本邦における第一人者の方々に、自らの仕事が「まな板に乗る」場は他になく、このWSが続き、次世代の人材が積極的に参加することを切に願いました。(今回参加の若い2名に、拍手！)

以上、短文ですが、感想まで。

#### ■並河 英昭(ソニーセミコンダクタ九州株式会社)



今回、初めて参加でしたが、非常に密度の濃い3日間を過ごさせていただきました。参加者の皆さんの幅広い発表にただただ圧倒され、コメントは全くできない状況でしたが、皆さんからいただいたコメントは大変参考になりました。

- ・基幹人材の育成は通常業務に $+\alpha$ で行うべきである。業務軽減の配慮は不要。
- ・講師となる社員には選抜教育の主旨を十分に説明し、一般教育と異なる点を理解させる。

・現在の中核プログラムは教養課程と位置づけ、研修による業務成果を短絡的に求めない。



・社内講師での運用は非常に良い。ノウハウの継承を今後も意識して欲しい。

次の機会に皆さんからいただいたコメントがどのように活かされかをご報告したいと思います。(次回は何かコメントできるように知識、見識を身に付けてきます。)

#### ■内田 実(LBS研究スタジオ)

3月で放送大学を退任し、その後、自宅の近くに「LBS 研究スタジオ」という部屋を作って、そこで毎日遊んでいるのですが、会う人の数が少なくなり社会が狭くなったように感じています。



社会を再度もう少し広くしようと sigedu のワークショップに参加しました。私は現在実施している準定期航空路操縦士訓練のための教育分析のコンサルテーションについて説明させていただきました。定期航空路のパイロットは国際的に認められる教育を受けていることが必要で、今回新しいライセンス開始に伴い、インストラクショナルデザインに基づく分析と設計そして確実な実施と評価が要求されました。航空業界だけでなく、APEC で TPP 等の取り決めがされて労働力の自由化が進んでいくと、このような国際的なライセンス

の質の保障としてインストラクショナルデザインが要求されてくるのだと思います。(なお、2015 あたりには、うまく行けば私がお手伝いした教育を受けた副操縦士が乗る飛行機が空を飛ぶでしょう。今よりも安全で、能力の高い副パイロットになりますので、安心して乗ってください。)

みなさんの発表も楽しく聞きました。鈴木先生の発表したケラーの MVP 理論は良くわからなかったので帰ってから「学習意欲をデザインする」を再度読んだのですが、やっぱり良くわかりませんでした。来年再度来日されるケラー先生に直接お話を聞けると良いなと思っています。バルトの若い方々の話も聞け、元気ができました。あのようの方々活躍するようになれば、日本はますます発展するでしょう。

3日間、色々な話が聞け、素晴らしい温泉に浸かれて、私の社会も少し広くなったような気がします。これからは狭くしないように努力しながら生きていきたいと思っています。牧野さん、楽しいワークショップの開催ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

#### ■奈良 隆正(NARA コンサルティング)

##### 【奈良さんからのメッセージ】



奈良です。  
時間が無くて書いてません。  
私の分は今回無しでお願いします。

#### ■山越 正俊(バルトソフトウェア株式会社)

SIGEDU 教育ワークショップには初めての参加でした。予定(2泊3日)を聞いたときは「長い」と思いましたが、実際に参加してみると活発な議論とオフレコセッションの絶妙な絡みで、適当な時間でありました。

そのような中、2日目午後の殆どの時間を弊社関係者に割当て頂き感謝しております。教育に直接携わる方々の話は、自分には新鮮であり興味深く聞けたのは貴重な体験でした。

今回参加しての教訓: 某教授曰く

お土産に旨い焼酎持っていくときは度数の高い物を！！

――> 飲むとき薄めることで量が増える(道中の携帯が軽くてすむ)



#### ■ 兼武 充 (バルトソフトウェア株式会社)

SEA SIGEDU ワークショップに参加させていただきありがとうございます。今回参加させていただき、自分の視野の狭さ、知識不足・経験不足を痛感しました。これまでは社内ばかり見ており、社外がどのようなになっているのか、世の中ではどのようなになっているのかなどは気にも留めていませんでした。参加させていただけたことで、自分の現状に気づくことができました。私が発表させていただいた社内の新人研修については、皆さんからのご指摘を元に改善するよう声をかけてみます。



皆さんの発表の1つ1つに興味を持ち、考えるところがありました。その中で特に、「L.E.T.」と「ARCS モデル」に興味がありました。ここ数年、後輩を指示する立場になり、接し方や教え方に悩んでいました。これまでは、自分で何がよいかを考え、色々な人に相談し、試してみるということをしていました。しかし、これでは試しているだけで確証がなく、後輩にとってはよいことではないと悩んでいました。「L.E.T.」と「ARCS モデル」の発表を聞かせていただき、自ら教え方を考えるよりも、先に教え方について勉強すべきだと感じました。

最後になりましたが、皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。次回お会いするまでには改善し、今回以上に意見を述べられるように努力したいと思います。今後ともよろしくお願いします。3日間の貴重な時間を頂き、ありがとうございました。

#### ■ 玉置 洋一郎 (バルトソフトウェア株式会社)

SIGEDU教育ワークショップでは実務を何十年もされた方や、教育を研究されている方が大勢参加され、社会人一年目がセッションで意見を言うことが出来るのか、不安でいっぱいでした。実際に初日の午後のセッションでは話す内容の高さ、勢いに圧倒され、ただきくことしか出来ませんでした。しかし、温泉に入り、食事をして、お酒を飲んで気がつく不安などは吹っ飛び、「酒の力は偉大だ」と感じました。

二日目以降は気を楽しんで、話す内容の高さを合わせるのではなく、自分のレベルで感じたことを、気づいたことを意見することを心がけ、少しではありますが、議論することが出来たのではないかと感じています。実務から得られた考え方や教育に携わっている方々の発表や議論は、自分の視野を広げるよい機会になりました。非常に内容の濃い3日間でした。



余談ですが、初日のオフレコセッションではウミガメのスープを題材に、お酒の勢いもあってか、鯨坂教授と少し議論になり、失礼がなかったか心配です。

#### ■ 牧野 憲一（バルトソフトウェア株式会社） 実行委員長

SIGEDU 年間計画は例年3月の月例会で決定します。今年は3月17日でした。その時点でのWS開催候補地は岩手県大沢温泉、そして実行委員長は篠崎直次郎（NECソフトウェア）さんでした。山越@バルトソフトウェア社長の一言で私が和歌山を候補地として名乗りを上げたのが、4月7日のことです。バルトソフトウェアは大阪以外には和歌山にも開発室を構えており、地元企業として立候補したのです。

和歌山といえば和歌山大学の鯨坂先生ということで、早速連絡を取ったところ快諾をいただくとともに、開催地の候補もいただきました。ホテル萬波も鯨坂先生のご紹介だったのです。

当初は実行委員長の交  
崎さんの出席が危ぶまれる  
交代しました。同時にプログ  
ツエスアイ)にお願いし、W  
振り返ると絶妙のコンビだっ

参加者数の確定が難しか  
してくださり、のべ15名の参  
加者数と予算の関連は深く、  
すが、赤字にはならず面目を保てたかとおもっています。



代は考えていませんでしたが、篠  
とわかった時点で、やむなく牧野に  
ラム委員長を米島さん（NECネッ  
Sの組み立てをしていただきました。  
たと思います。ねっ、米島さん。

ったのですが、ぎりぎりまで調整を  
加で開催することができました。参  
実行委員長の腕の見せ所でありま

でももう一つの不安要素がありました。それは台風14号の動きです。紀伊半島への最接近がWSの二日目から三日目にあったのです。ホテルからの外出予定はないので、WSの開催そのものには影響がないことはわかっていたのですが、途中で次の訪問先に向かわれる方、途中から参画される方、終了後帰宅される方が予定通りに移動できるかどうか心配でした。でも、我々の日ごろのおこないの良さが台風に勝ちました。ホテルでは強風が吹いていたものの全く雨にはあうことがなかったのです。これは奇跡に近いと思います。

会場についてもコメントしておきます。鯨坂先生が「食事は期待したらあかん」と事前に期待値を低くするように発言がありましたが、十分だったと思います。太刀魚料理や土瓶蒸しは私にとっては貴重な機会であり、おいしくいただきました。市内中心部からは離れて少し不便なところにホテルはありますが、その分、下界から隔離され絶好のWS開催地だったと言えるのではないのでしょうか。ホテルの窓から見える景色は絶景でしたし、温泉も露天風呂にゆっくりとくつろぐことができました。

肝心のWSセッションですが、話題はバラエティにとんでおり、とても幅広く議論ができて楽しかったです。バルトソフトウェアは4名参加し、おのおのの立場での発表をしました。参加者各位から温かいアドバイスを頂戴し、WSならではの成果を持ち帰ることができました。早速反映に着手いたします。

しかし、皆さん議論がお好きですね。懇親会の位置づけである夕食会でアルコールが入った後でも、会議室に戻って再び議論するなんて考えられません。それに飽き足らず、22時に会議室を出ると、幹部部屋で続きをやるとはさすがです。初めて参加された方は驚かれたことと思います。

恒例になっている有志による解散後の現地視察ですが、雨天ではないものの荒天が心配なので中止し、和歌山市内の食堂までホテルのバスで送っていただきました。山為食堂という名前なので心配だったのですが、そこで食べている方全員が和歌山ラーメンを注文しています。なるほど、事実上のラーメン店なんで

すね。記念に撮影した写真を掲載しておきます。

今年度、WS実行委員向けの管理ファイルを強化しました。汎用性も考慮したので、次年度のWS実行委員の方たちにも是非使っていただきたいと考えています。

つたない実行委員長でしたが、皆様のおかげで無事にWSを終了することができました。WSから得るものを一つでも持って帰っていただければ幸いです。皆様とまたお目にかかれることを楽しみにして、実行委員長の任務を終了させていただきます。



## 7. ワークショップ風景



懇親会(夕食)風景



懇親会(夕食)風景



ホテル萬波の部屋から見える風景



ワークショップ開催風景



WS終了後の記念撮影



解散後訪問した和歌山ラーメン(山為食堂)

## 8. 発表資料リンク(URL をクリックしてご覧ください)

- 鱒坂先生  
エクスペリエンス工学とその教育実践への適用  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_ajisaka.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_ajisaka.pdf)
- 鈴木先生  
ARCS-V モデルを支える MVP マクロモデルは妥当か  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_suzuki.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_suzuki.pdf)
- 米島さん  
ネットワーク技術者育成の課題と技術認定制度の活用  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_yoneshima.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_yoneshima.pdf)
- 君島さん  
チーム作業技法 TeamSTEPPS の導入:八甲田山雪中行軍は正しかった  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_kimijima.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_kimijima.pdf)
- 奈良さん  
ソフトウェア技術者への品質(保証)教育について  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_nara.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_nara.pdf)
- 豊永さん  
要件定義演習科目の方略変更による学習改善  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_toyonaga.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_toyonaga.pdf)
- 山越さん  
目指せCMMi認証  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_yamakoshi.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_yamakoshi.pdf)
- 兼武さん  
ある中堅社員の悩みー私のあるべき姿とはー  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_kanetake.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_kanetake.pdf)
- 玉置さん  
研修を終えて～社内外の違いと今後への展望  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_tamaki.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_tamaki.pdf)
- 牧野さん  
組織力向上に向けて  
[http://sea.jp/SIGEDU/24th\\_makino.pdf](http://sea.jp/SIGEDU/24th_makino.pdf)

以上